

# トホクのオクラ栽培方法

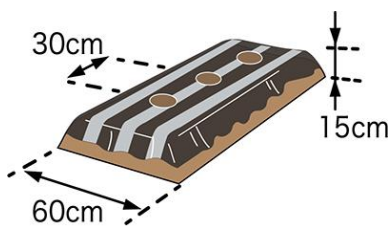
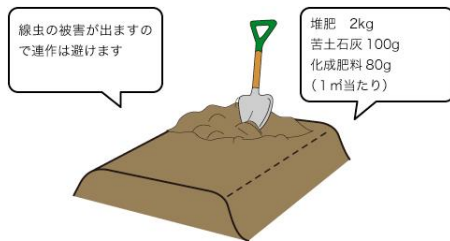
発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃  
 土壌酸度：pH6.5～7.0 連作障害；3～4年あける

## 1. 作物特性

オクラは高温性で寒さに弱い作物ですから、十分に暖かくなってからタネをまきます。移植を嫌う野菜ですから畑に直接タネをまくのが一般的ですが、ポットにタネをまいて暖かい場所で発芽させ苗を育てることもできます。幼苗期の苗立枯病やアブラムシ被害への注意が必要ですが、それ以外は特に難しい管理作業はなく、プランターでも簡単に楽しめる野菜です。

## 2. タネまき・植えつけ

オクラは連作するとネコブ線虫の被害が出るようになり、生育不良となってきます。同じ場所で作り続けず、他の野菜と輪作するようにしましょう。



アブラムシの飛来をできるだけ少なくするためにシルバーラインの入った黒マルチが特におすすめです。

株間 30cm に約 2cm の深さに 1 か所 3～4 粒ずつタネをまきます。オクラのタネは皮が硬いのでタネまき前日から水に浸しておくと発芽が揃いやすくなります。

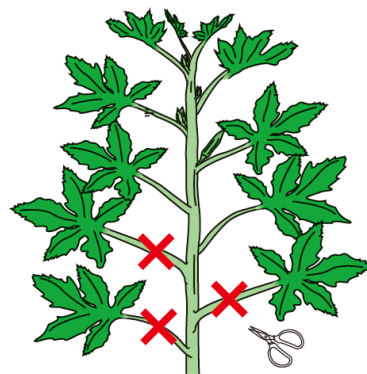
ポットで苗を育てる場合は 9cm ポットに約 1cm の深さにタネをまきます。オクラは樹勢が強すぎて株が繁茂しすぎると曲り果やイボ果などが発生することもあります。1 か所に 2～3 本立ちにする方が互いに抑制し合っ



て過繁茂になりにくく有効です。ポットで苗を育てた場合も 3 本そのまま植えつけます。

## 3. 栽培管理・収穫

幼果の収穫が始まる頃、わき枝の発生が多くなってきます。放っておくと主茎の生育が抑えられてしまうため、早めに摘み取ります。



収穫が進んでくると下葉が繁って風通しを悪くします。肥料分の浪費にもなるので、幼果の下葉 4～5 枚を残しそれより下の葉は摘み取ります。

果実が成りだしたら 1 株当り 50g の化成肥料を追肥します。マルチを使っていない場合は除草を兼ねて株の周りに土寄せします。追肥は 15～20 日おきに 2～3 回にわけて行うと良いでしょう。

夏場は開花後 4～5 日で収穫適期となりますが、気温が低いと若干日数が多くかかりますが、早めの収穫を心掛けます。

収穫期の目安としては、五角種は 8～10cm、丸莢種は 8～16cm です。果実は硬いのでハサミで収穫します。



### ● 栽培例

● まく時期    ■ 収かく時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地				●	●			■	■			
中間地				●	●		■	■	■			
暖地				●	●		■	■	■	■		